

壊れている人間 立石尚志

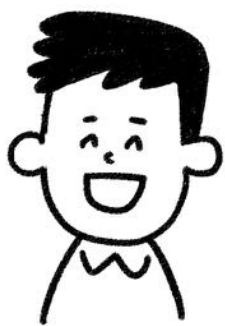
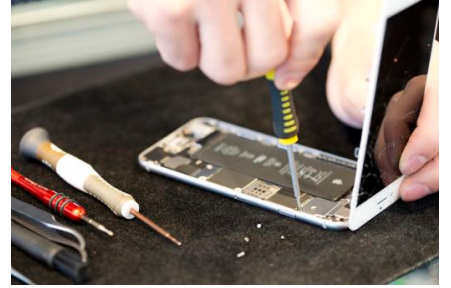
●よく壊れる サンクスギビングの翌日はブラックフライデー、クリスマス商戦の初日とされていますが、ここ米国では一年中で一番物が売れる日だそうです。こんなに物が溢れている国において、これ以上、何を買う必要があるのだろうか、と書いてしまいますが、米国に住んでいてよく思うのは、物がよく壊れる、ということです。壊れるのだから、取り替えるか新しい物を買うのが当たり前、「修理する」というコンセプトはもはや存在しないと書いても過言ではありません。

●修理して使う？ どんな製品でも製造と販売との間で「耐用年数」が決められていますから、いつか壊れても仕方がない面がありますが、それにしても勿体無い！と思うことが多々あります。幼い頃から物の仕組みや物を作ることに興味があった私は大学で機械工学を専攻し、今も「物」が大好きです。ですから、ちょっとしか壊れておらず、まだまだ使えそうな物がゴミとして捨てられているのを見ると、見るに見かねる気持ちになります。私たちが住んでいるグリニッチはとにかく大金持ちが住む街であり、街の共同ゴミ捨て場に捨てられている物がこれまた優れ物が多く、かつて教会で秋にバザーを行っていた頃は、自転車を何台も拾って来てはコツコツ直して綺麗に磨いて出品しましたし、かなりの台数のパソコンを拾って来ては「余暇」と称して修理し、オークションサイトで売って小遣い稼ぎをしていました（今は立派な裏サイクルビジネスが成り立っているようで良い物はすぐにお蔵入り。お陰でゴミ捨て場に行く機会が減りました。笑）。今も、物を直して使うスピリットは失っていません（簡単な修理ならいつでも請け負います）。

●創造物である人間 ところで、人間を「物」になぞらえるのは抵抗があるかも知れませんが、聖書理解には大きな助けになります。というのも聖書が開口一番教えていることは「人間が神の創造物 (CREATION) である」ということだから

です。人間は神の「創造物の頂点」であり、最後の最後に創造なさった「最高傑作」であると聖書は教えています。しかも人間は単なる「物」ではなく「霊 (永遠に生きる人格)」を持ち合わせているハイブリッドです。私は多くの犬猫を飼って来ましたが、残念ながら彼らと星空の美しさや文学作品について分かち合えた試しがありません。そもそも人間だけが神が創造なさったものを理解することができ、その素晴らしさに感動し、その世界に働きかけ、それを意識的に利用することまでできるのです。人間 (知的生命) がいない世界を想像して見てください。神の創造物の中での人の重要性が見えて来るはずですよ。

●壊れている人間 しかし聖書は最初の数ページで深刻な問題があることも教えています。それは人間が「壊れている」ということです。もっと具体的に言いますと、人間は神様の命令に逆らい、神様との信頼関係、また生命線であった主従関係を破ってしまったのです (創世記3章)。本来、神が座しておられるべき「心の王座」から神を引き下ろし、人間の霊がどっかり居座ってしまったのです。これがそのまま「自己中心」の姿であり、この自己中心こそ人間が生み出す全ての問題の根源なのです。ですからどんなに外側の「社会や環境」を改善してみたところで、問題は常に人間の内側にある悪い心から湧き出て来るので人間の問題は無くなりません。人は心の王座を神に明け渡さない限り、決して自己中心から逃れられないのです。世間的に見て「いい人」であっても神の目から見たら大罪人であるのはこのためです。しかもチャンスがあるうちに神に立ち返らないなら、肉体の死とともに人間の霊は永遠に自己中心から逃れられなくなる「地獄」へと定められてしまうことになるのです。(裏面に続く)



【洗礼一年を経て】 R.O. (教会員)

洗礼を受けて約一年になりました。クリスチャンでなかった頃の自分と、なると決心した頃の自分と、なった後の自分と、それぞれまだ記憶が残っている頃ですね。やがて時間と共にこういった記憶も薄れていくということを思うと、この時期にこうして証を書くというのは貴重かなと思いつつ、筆を進めています (実際はキーボードをタイプしています)。今回は、私がクリスチャンになると決心するにあたって欠かすことの出来なかった存在について書きます。両親と、妻です。

私は、四人兄弟の一番下に生まれました。世間的に見ても、不自由のない、むしろ恵まれた環境に育ったと思います。両親は、今でも私の最も尊敬する人達であり、感謝してもし尽くせません。学生時代は、学業や部活動などに本当に惜しみなく援助がありましたし、友人知人関係を大事にするようにとサポートしてもらえました。かといって、散財を良しとせず、ゲーム機など玩具類はほとんど買わない、物は大事に使うように教えられました。私は、物をなくしたり、すぐに壊してしまう事が多く、小

さい頃はよく親に怒られていました。買ってもらったサッカーボールを立て続けに二度もなくした時は、本当に大変でした。今では逆に「同じ服ばかり着続けるのは止めなさい」と注意されますが・・・小さい頃に教え込まれた事は、大人になっても残ります。裕福な環境の中で、厳しさをもって育ててもらった、ということが、私という人間を形成しているのだと感じます。

以前ハーベストタイムというオンラインで聞ける聖書解説メッセージで、「両親と、特に父親と良い関係を築いて育った人は、聖書が教える神様のイメージを純粋に理解しやすい。なぜならクリスチャンは天の父なる神様、と祈るのだから」と牧師が語っていたことがありました。もちろん家庭内の逆境から神様を知ることもあるが、もっと素直にイメージすることが出来る、という内容でした。私はこのメッセージを聞いたときに、とても納得したのを覚えています。親というのは、時に厳しく、時に優しく、模範は示すが、自主性を重んじて不必要に介入せず、それでいて常に子供のことを想ってくれている、そういうものだ教えてもらったのは、まさに両親からでした。両親はクリスチャンではありませんが、私がクリスチャンになった下地には、そういった

両親のもとに育てられたことも関係しているのだと思います。自分も子供達に対して同じようなことを伝えていけるか、これは今の私の課題です。

妻と私は、大学生時代に出会いました。同じサークルでした。ドラマチックに一目惚れ、という感じではなかったのですが、卒業する頃には「自分達はいずれ結婚するのだろうか」という仲になっていました。妻は、こんな所で言うのも何ですが、如才ないようでいてそうではなく、色々な意味で誤解を受けやすい人だと思います。結構、それで損をしていることも多い、と心密かに思っているのですが、その一方で、時にはとさせられるほどに、神様に愛されている人だな、と思わせられる人でもあります。私たちは結婚してから、どこか一定の場所に定住するということがなく、ほぼ1~2年で引越しを繰り返すような生活を送っています。当然、新しい地に不安を抱えつつ移動するのですが、私はどちらかというと「仕事が出来ればいいか」程度の狭い世界で生きるのですが、妻はどのようなわけか、すんなりとその地域に溶け込みます。それは決して彼女が周り積極的に交流するからではなく、彼女に興味を抱いて向こうから声をかけてくれることが多い。また、いわゆる上辺の付き合いではなく、良い人達との出会いがある。良い出会いは、人生を彩り、生活を豊かにしてく

れます。困難があっても、それを語る相手を与えてくれる。私の妻は、そういった良い出会いが自然と与えられる、これは私がクリスチャンになる前からずっと感じていたことでした。ちなみに、グリニッジ教会につながったのも、妻が子供達と散歩していた公園で、たまたま出会った方がきっかけでした。妻自身、決して平坦な人生を歩んできたわけではありません。自分の力で何とかしようとしていたこともあると思いますが、私は、彼女は何かもっと大きなものにずっと守られている、くじけそうな時に手を差し伸べてくれている存在がある、そう感じていました。聖書は、主は、私たちが罪人であった時から私たちを愛してください、と教えます。その愛の片鱗を、私は妻の中に見ていた、そう気づくと、聖書の言葉はもはや単なる紙面上の文字ではないですね。妻自身も、そういった差し伸べられた手を素直に受け取ることができる。それも賜物だなと思います。

こうして振り返ると、私は教会に通い始めるずっと以前から、神様と出会っていたのだ、と感じます。神様は、実に様々な方法で、人の考えをこえて、その御業をあらわします。恐らく、今も、私がまだ気付いていないこともあるでしょう。それを信じ、そこに希望を抱くことができる、それがクリスチャンとしての醍醐味なのだと思います。■

(表面からの続き) ●**神の修理の手** 200万円もするロレックスの腕時計を持っていたとしましょう。あなたは何よりもそれを大切にしていたのですが、それが壊れて役に立たなくなってしまうとしたらどうでしょう。あなたはなんとかしてそれを修理しようと思うでしょう。一人一人の人間は神の目から見たら、ロレックスとは比較にならないほど高価な存在です。ですから神はなんとか人を修理して、本来の輝きを取り戻させ、本来の働きをさせたいと願っておられるのです。ところが一つ、ロレックスと人間とは重大な違いがあるのです。それは、人間が「治そうとする手」を払い除けることができる、ということです。もともと神に従っていない私たちは根本的に「高慢・高ぶり」の罪に陥っていますから、なかなか自分の非を認め、足りなさを認識することができません。ですから神からの迫りを感じても「治してもらい必要などありません」「私でなくあの人の問題です」と言って、神の手を払い除けてしまえるのです。

●**修理費は支払われている** クリスマスは神が人間の修理と回復のために支払ってくださった代価です。神は一人子イエスを人として地上に遣わし、全人類の罪を十字架の上で背負わせ、命を捨てさせ、人間の修理のための支払いとされました。今、神が私たち一人一人に求めているのは、自分の「壊れ」を認め、素直に「治してください」と神の前に自らを差し出すことなのです。そうするならば、神は壊れた私たちをご自分の手に取ってくださり、修理し、整え、ご自分の目的のために用いてくださるのです。そして、この地上での歩みが終わったならば、私たちの霊のためにはさらに優れた新しい体までご準備くださっています。あなたはこの神の招きにどのようにお応えになるのでしょうか。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。ヨハネ 3:16 ■



■ 2017年 冬の集会・行事予定 ■

下記以外にも週の間に入門クラス、聖書の学び会等が行われています。お問い合わせください

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝 / 10:00~11:30
交わり会 / 11:30~12:00
- ★ 祈り会 / 水曜日 10:00~12:00

【各種集会】

- ★ **スタンフォード** 聖書を読む会
隔週木曜午後 2:00 場所: 井上宅
- ★ **ハートフォード** 聖書を読む会
隔週月曜、毎週木曜午前 要問合せ

- ★ **グリニッチシニア** 聖書を読む会
お問い合わせください: 教会図書室
- ★ **サラトガ家庭集会**
月1回 10:30 場所: キャスパ一宅



★★★ **クリスマスの夕べ 「Emmanuel」 神は私たちと共におられる** チラシ → [2017XmasFlyer.pdf](#)
12月17日(日) 5:30 PM *featuring the Japanese Gospel Choir of Greenwich & Kid's Choir*
ウェストチェスター・フェアフィールド地域の日本人女性たちと子供たちによるゴスペル演奏とキャンドルサービス、皆で歌うキャロルをもって、共にクリスマスの希望と喜びの福音/ゴスペルを綴って参ります。

★★★ **子供クリスマス会 12月19日(火) 4:30~6:00 PM** チラシ → [2017XmasFlyer.pdf](#)

★★★ **クリスマス・ウェルカム礼拝 12月24日(日) 10:00 AM**

★ **1月ウェルカム礼拝&お餅を食べる会 2018/1/28(日) 10:00 AM**

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志
c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com
《問い合わせ》 教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203)531-1609 e-mail: church@jgclmi.com

